

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒、保護者、教職員が「みんなの大手前 みんなが大手前」と誇れる学校づくりをめざす。

- 1 生徒のニーズや学力に沿ったきめ細かい授業を展開し、自己実現のサポート体制を充実させる。
- 2 幅広い年齢層や多様な価値観を持つ生徒が、「入って良かった。」と実感できる学校づくりを推進する。
- 3 現代社会を生き抜いていくための基本的な資質や能力を備え、社会の一員として自立した生活を営むことのできる力を養う。

2 中期的目標

1 生徒各自が持つ学力の最大限の伸長

(1) 生徒の自己実現を促進するための取組み

- ・落ち着いた学習に臨めるための環境整備と規律指導
- ・少人数授業や必要に応じた抽出授業による、「授業がわかった」、「授業が楽しい」と生徒が思う授業づくりの推進
- ・生徒のニーズ、実態に沿った基礎学力及び大学進学のための学力を身に付けさせる補講・講習の実施
- ・T-N-E-T、外国語外部指導員等の活用による生徒の英語コミュニケーション力の向上

(2) 生徒の学力の正確な把握

- ・適性検査や基礎学力テスト等による生徒各自が持つ潜在的な能力の発掘と適確な個別指導の展開
- ※数学基本力調査 漢字検定（自作）日本語テスト の実施

2 生徒各自に必要な支援を行える体制づくり（スクールソーシャルワークの組織的体制づくり）

(1) 個に応じた支援体制の強化に向けた取組み

- ・新入生の情報の収集及び中学校との連携強化による支援方策の検討
- ※特別な配慮が必要な入学予定生の出身中学校と連絡を取り、情報共有する。(H28：すべての出身中学校と電話で情報交換)
- ・全教職員の生徒情報を共有するシステムの充実と細やかな指導による卒業率の向上（進路情報連絡会の設置）
- ※卒業率を少しでも向上させる。(H28年度 3年コース 7名/10名、4年コース 15名/17名 計81.5%)
- 平成29年度目標：83%、平成30年度目標：85%、平成31年度目標：87%

(2) 校内支援組織の整備と充実

- ・校内支援委員会の機能充実
- SSW 同席による校内支援委員会を年間10回実施する。
- ※「高校生活支援カード」「気になるメモ」等のファイルリングによる個人カルテ（個別支援計画）の作成
- ・SSW活動の推進
- ※専門家と生徒、保護者、学校との連携による個別支援計画の作成
- ※SC、SSW、CCとの連携を推進する。SC、SSW、CC同席によるケース会議を年間2回以上実施する。
- ※職業適性検査等の活用。全学年において夏季休暇までに適性検査を1回実施する。
- ※ハローワークや若者サポートステーション等との連携。サポートステーション主催の連絡会議に出席し、情報共有する。

3 キャリア教育と人権教育の充実

(1) 入学から卒業までの期間を見通した、キャリア教育・人権教育の計画の実践

- ・就職希望者の内定率を高めるための勉強会や就職試験対策に関する取組みの充実
- ※学校斡旋就職内定率(H28：6/6名 3月末)100%を維持する。
- ・卒業後の生活設計を考えた、生徒個々の進路指導の充実
- ※進路未決定率(H28：22.7% 3月末)を少しでも減少させる。
- ・人権教育推進委員会の活性化

4 学校力の向上

(1) 組織力を高める教職員相互のスキルアップと外部機関との連携促進

- ・教職員研修の充実
- ・教職員相互による研修を積極的に推進し、教職員同士で学びあうシステムの構築
- ※研究授業のあり方を検討する。
- ・専門的な知識・技術を有する外部機関との連携強化
- ※他校の先進事例等の研究を推進する。
- ・静かな教育環境の保持及び学校生活のマナーについての意識高揚を図るための組織的な指導体制の構築
- ※教員相互の指導体制の平準化を図る。
- ・教職員が一丸となって教育活動に関わる学校組織の構築

(2) いきいきとした学校生活を送るための環境整備

- ・部活動の活性化(H28：3月現在 入部率57.7%)平成29年度目標：60%、平成30年度目標：63%、平成31年度目標：65%
- ・保護者との連携強化
- ・将来の学校像について中・長期的なビジョンを持って企画調整委員会で検討する。
- ・広報活動の活性化
- ・各種指導の充実と指導時間の確保

5 ICTを活用した校務の効率化

(1) 校務の効率化による生徒と向き合う時間の確保

- ・生徒情報の共有化を正確かつ容易にするためのシステムづくりの推進
- ※ICT委員会を中心とした円滑な新校務処理システム運用
- ※ICT機器を使った授業についての研究（視覚教材の活用を推進）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>回収率 (在籍数 95 名 教員 17 人) 保護者 25.4% (H28 25.4%) 生徒 64.2%(H28 66.7%) 教員 88.2%(H28 100%)</p> <p>●生徒の評価が高い項目 (「よくあてはまる」 + 「ややあてはまる」 合計)</p> <p>○生徒「自分が学校に来ていることは意味があると思う」 93.4%(H28 89.2%) 保護者「子どもは学校へ行くのを楽しみにしている」 80%(H28 80%) 教職員 (該当項目なし)</p> <p>○生徒「教え方に工夫をしている先生が多い」 90.2%(H28 91.5%) 保護者「子どもは授業が楽しくわかりやすいと言っている」 63%(H28 83.3%) 教職員「生徒の学習意欲に応じて、学習指導方法や内容について工夫している」 93.3%(H28 100%)</p> <p>○生徒「学校は、奨学金制度についての情報を知らせてくれる」 90.0%(H28 91.2%) 保護者「学校は教育情報について提供の努力をしている」 71%(H28 71.4%) 教職員「奨学金教育教材等を活用して奨学金制度等について指導している」 100%(H28 90.5%)</p> <p>○生徒「先生は学校の決まりや約束事を守っている」 93.2%(H28 91.5%) 保護者 (該当項目なし) 教職員「職場においては教職員の服務規律への自覚が高い」 85.7%(H28 89.5%)</p> <p>○生徒「生徒のプライバシーは守られている」 91.8%(H28 94.4%) 保護者 (該当項目なし) 教職員「個人情報保護の観点から、生徒の個人情報に関する管理システムが確立されている」 85.7%(H28 90.9%)</p> <p>生徒の肯定的意見が多い項目としては、①学校生活の意義に関するもの、②「授業での工夫・指導法の改善」に関わるもの、③「指導体制の充実・プライバシー保護」に関わるものに関するもの、が挙げられよう。特に①については、「学校へ行くのが楽しい」(H29:86.9% H28:71.2%)も高い数値を示しており、学校に登校してきている生徒の学校生活に対する充実感は、昨年度よりかなり高い。また、今年度はパッケージ研修支援Ⅱにエントリーし、学校全体で授業改善に積極的に取り組んだ効果もあって、授業に対する満足度が高かった。</p> <p>●生徒の評価が相対的に低いもの</p> <p>○「部活動に積極的に取り組んでいる」 59.0%(H28 53.5%)</p> <p>部活動ができないような様々な事情が生徒には存在し、単純に数値だけで測ることは難しいが、部活動や様々な学校行事を通して、自己有用感や学校生活での充実感を高めていく手だてが必要であろう。</p> <p>また、「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」 (H29:76.7% H28:88.9%) 「担任の先生以外にも 保健室や相談室で気軽に相談できる先生がいる」 (H29:75.0% H28:86.1%)</p> <p>といった項目も、昨年度と比較して数値が低下している。今まで以上に生徒一人一人に寄り添った丁寧な個別支援体制を構築し、生徒が気軽に相談しやすい雰囲気づくりを努めなければならない。</p> <p>また、保護者の自己診断回収率が低く、評価も生徒と比較すると低くなっている。学校での取組みや様々な教育活動について、もっと積極的に情報発信して、保護者の皆様によく知っていただくための努力を、今後もしていく必要がある。</p>	<p>第1回 学校協議会 (平成 29 年 7 月 14 日 (金)) 《今年度の状況報告を受けて》</p> <p>○進路指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業後、就職した生徒の定着の指導について、でき得る限り取り組むべきだ。 <p>○長欠の生徒について</p> <ul style="list-style-type: none"> 長欠生徒について、連絡がつきにくいのは理解できるが、説明できるように状況を把握する努力を継続して欲しい。 <p>○中学校指導者側の定時制高校の認知について</p> <ul style="list-style-type: none"> 起立性調節障がいなど、何らかの事情で不登校の生徒が中学校では多いようである。眠れない、起きられない、通えないで、全日制を選ばず、定時制を選ぶケースもある。しかし、中学校の教員はあまり定時制について詳しい情報を持っていないように思う。 中学校の進路指導主事の集まり等で、時間をもらって定時制についてPRすることが重要。 不登校のご家庭では、保護者も生徒も、定時制か通信制かの選択では通信制を選ぶ場合が多い。しかし選択肢として定時制を考えてもらうために、知っておいてもらうことは重要である。 <p>《平成 29 年度学校経営計画の説明を受けて》</p> <p>○福祉と教育の連携の重要性</p> <ul style="list-style-type: none"> ソーシャルワーカーを教育の現場に入れることは、とてもいいと思う。教育者とは違う視点で助言してもらうことや、どういつなぎをすればいいのかという助言を受けることで、生徒の未来の可能性が広がる。そういう意味で福祉との連携が重要だと思う。 <p>○関大院生プロジェクトと大阪大学総合演習実習校企画</p> <ul style="list-style-type: none"> 関西大学臨床心理専門職大学院の院生との連携を、より強めて今後も続けて欲しい。大手前から関大に対して進んで働きかけて行って欲しい。 阪大の学生が、「総合演習」の単位取得のために本校で支援活動を実習することも、非常に意義がある。特に本校の全日制から阪大に進学した学生が、本校の定時制で学ぶことは意義がある。こちらも阪大に対して、今後も継続できるように積極的に働きかけてほしい。この二つの大学との連携は、途絶えさせてはいけない。 <p>《教科書選定》</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校で学ぶ生徒たちにとって、適切な選定をしてもらっていると思う。 <p>第2回 学校協議会 (平成 29 年 12 月 1 日 (金)) 《授業見学》</p> <ul style="list-style-type: none"> 3年生「社会と情報」、2年生芸術選択 (音楽Ⅰ、美術Ⅰ、書道Ⅰ)、3年生「コミュニケーション英語Ⅰ」の授業を見学 要領を得た活動をできる生徒がいた。(情報) 楽しそうな雰囲気の授業だった。(英語) 情報については自分が学生時代なかった教科であったが、かなり高度で実践的な内容をされていると感じた。 芸術については高度なことをされているということに併せ、少人数のよさが出てくると思う。 質の高い授業になっているので好ましい。こういう授業を受けられる生徒をとってうらやましく思う。 情報の授業についてよく理解している生徒とそうではない生徒の差があるように思う。 <p>《学校の近況について准校長から報告》</p> <p>○地域合同防災について (学校防災アドバイザーの協力を得て地域と連携した防災教育推進委員会を立ち上げ、来年度には定時制生徒と地域が協力して、合同避難所訓練を実施する運びとなったこと)</p> <ul style="list-style-type: none"> このような形で地域連携が進んだことは、意義が大きい。 想定はしておかねばいざという時に動けない。大事なことであり、いい取り組みだ。 <p>第3回 学校協議会 (平成 30 年 2 月 16 日 (金)) 《平成 29 年度学校評価案について》</p> <ul style="list-style-type: none"> 「特別な配慮を要するすべての生徒の出身中学を訪問」は、大いに評価できる。 外部人材の有効活用については、専門性の高い人材の活用が有効。たとえば中学校では人権講演会 (教員向け・生徒向け・保護者向け) に弁護士を活用した。

府立大手前高等学校 定時制の課程

	<ul style="list-style-type: none"> ・部活について、定時制の生徒にもできるような選択肢をもっと増やしてほしい。 ・ホームページやパンフレットのリニューアルについて、どういうところに配布して見てもらっているか、という視点が必要。出口に関して、卒業生全体から見た進路希望の実現はどうか。高卒で就職したが離職してしまった卒業生に対しても、高校が進路保障すべき。やめた後にも学校に帰って相談できることが大切。 ・起立性調節障害で朝起きられない生徒や、中学時代不登校の生徒が、昼間に仕事しながらうまくリズムを作っていくって学習できるのが定時制。やはり定時制の現在の在り方を中学校に伝える努力は必要ではないか。 <p>《平成 30 年度経営計画案について》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「社会人基礎力の 12 項目」を経産省が文科省に対して、学校時代に教えておくように要請した。特に就職希望者が多いのなら、これをしっかり教えておくべき。 ・中学校の夜間学級から定時制に入った高齢の方は、次のステージのためではなく、学ぶこと自体が生きがいになっている。年齢層によってターゲットはいくつも必要になる。どこかに絞ってというのは難しいだろう。「大手前の定時制に行ったら、こんな力がついて卒業できる」といった魅力をアピールできたらよい。 ・子供が中 2 の終わりごろから不登校になって、卒業後の進学先について悩んでいた時、親戚で本校（大手前定）に通っている子がいて本校のことを知り、一気に道が開けた感じだった。見学や説明会にも来させてもらって、本人が「行きたい」と強く望んだので、こちらに来させてもらうことになった。 ・同じ悩みの子は、中学校にもいる。「ここに来て、自分をもっと出せるようになった」とか、「学校生活が楽しい」とかいう生徒の話や、保護者の生の声は、大きな説得力を持っている。 ・しんどい生徒を手厚くサポートしている定時制の現実を、中学校へアピールすれば、絶対伝わるはず。 ・中学校の進路指導主事の会合に出向いて、大手前の良さを具体的に話すとうい。
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 生徒各自が持つ学力の 最大限の伸長	<p>(1) 生徒の自己実現を促進するための取組み</p> <p>ア 社会で必要とされる学力を身につけるための教育活動の工夫</p> <p>(2) 生徒の学力の正確な把握</p> <p>イ 生徒の潜在能力の発掘と適確な個別指導の徹底</p>	<p>ア 落ち着いた学習環境で学べるようにするため、授業中の規律指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 少人数授業や必要に応じた授業を行い、「授業がわかった」、「授業が楽しい」と生徒が思う授業づくりに努める。 ・ 生徒のニーズ、実態に沿った基礎学力及び大学進学のための学力を身に付けさせる補講・講習を実施する。 ・ 外国人外部講師の活用によりコミュニケーション力のさらなる向上を図る。 <p>イ 全学年において新年度の早い時期に適性検査を実施する。また、英検・漢検の受検機会を促進し生徒の能力の適確な把握に努める。</p> <p>ウ 視覚教材を活用した、魅力的でわかりやすい授業実践を進める。無線LANを活用し、タブレット型端末等を効果的に用いた主体的・対話的で深い学びの場を構築する。</p>	<p>ア 「授業アンケート」における「授業内容に興味・関心を持つことができていると感じている」、「授業中は集中して先生の話の話を聞いて学習に取り組んでいる。」の肯定率 80%以上を維持する。 (H28: 「興味・関心」 80.9% 「授業中集中・・・」 81.8%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外国語外部講師に関する授業アンケートにおいて授業満足度 80%を維持する。 (H28: 90%) <p>イ 各学年で6月を目途に適性検査等を実施し、個人カルテを作成し生徒指導に生かす。</p> <p>ウ 学校教育自己診断における①「教え方に工夫している先生が多い」(生徒)、②「子どもは授業が楽しくわかりやすいと言っている」(保護者)、③「生徒の学習意欲に応じて学習指導方法や内容について工夫している」(教員)の各項目の肯定的意見 90%以上を維持する。 (H28: ①92%、②83%、③100%)</p>	<p>ア 授業アンケートにおける当該項目の肯定率は、「興味・関心」が 85.7%、「授業集中」が 83.6%であり、生徒の学習への取り組み状況は良好といえる。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外国人講師に関する授業アンケートにおける授業満足度は 94%であり、良好といえる。(◎) <p>イ 全ての学年において適性検査を実施し、個人カルテを作成し、生徒指導に活用した。(◎)</p> <p>1年生：4月に適正職適性診断 2年生：6月にレディネステスト 3年生：1月に一般職業適性検査 (GATB) 4年生（3年生卒業予定生含む） ：6月に一般職業適性検査 (GATB)</p> <p>ウ 学校教育自己診断における当該項目の肯定率は、①90.2%、②63%、③ 93.3%であり、②以外は90%以上を維持できているといえる。(○)</p> <p>②肯定率向上の方策として、学校での教育活動について、よりいっそう保護者に知っていただくために、「進路だより」を定期的に発行し、ホームページ等を積極的に活用していきたい。</p>

府立大手前高等学校 定時制の課程

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 生徒各自に必要な支援を行える体制づくり</p>	<p>(1) 個に応じた支援体制の強化に向けた取組み</p> <p>ア 生徒情報の収集と実態把握</p> <p>イ 個人情報の集約化</p> <p>(2) 生徒支援組織の整備と充実</p> <p>ウ 校内生徒支援委員会の機能充実</p> <p>エ 生徒相談活動の機能充実</p> <p>オ スクールソーシャルワーク (SSW) 活動を組織的に活性化させる。</p>	<p>ア 合格時点から新入生の情報を収集するとともに、中学校との連携を強化し、必要な支援方策を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 全教職員が生徒の情報を進路情報連絡会で共有し、個別支援により卒業生数を増加させる。 <p>イ 「高校生活支援カード」や「気になるメモ」等を活用し情報の集約化を図る。</p> <p>ウ 校内支援委員会の機能をさらに充実させ、SC、SSWとのケース会議により生徒の進路プランニングを行う。</p> <p>エ 生徒が気軽に相談できる場所作り。保健室、SC、関西大学臨床心理専門大学院と連携した相談室の設置</p> <p>オ 生徒の個別支援計画を作成し卒業後の自立を支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校生活において自己有用感を高め、自覚的に行動できるスキルを高めるために、アサーション・トレーニングやコミュニケーション・スキル向上を目的としたワーク等を実施する。 	<p>ア 特別な配慮が必要な生徒の出身中学校と連絡を取り、情報共有する。</p> <p>生徒一人一人を丁寧に支援する本校のSSW活動を中学校へ広報して志願者の増加を図るために、学校案内パンフレット、学校ホームページを5月中を目途に刷新する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業率を向上させる。 H28：3年次生 7名/10名 4年次生 15名 /17名 中退率を前年度から少しでも減少させる。 H28：9名/113名 全校生徒の出席率を前年度より向上させる。 H28：約 70～75% <p>イ 学校教育自己診断の評価の3つの項目を前年度より少しでも向上させる。</p> <p>「担任の先生以外にも保健室や相談室等で気軽に相談できる」 (H28：86.1%)</p> <p>「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」 (H28：88.9%)</p> <p>「学校に行くのが楽しい」 (H28：71.2%)</p> <p>ウ ケース会議を月例で開催し、プランニングを実現する。</p> <p>SSWと教員でアウトリーチを含めた行動を実践する。 (取り上げた生徒数 H28:66件)</p> <p>エ 生徒の相談件数と教員アンケート肯定率の向上</p> <p>H28 (3月末)：保健室 862件 関大院生 597件 教員アンケート (関大院生) 45% ※院生と教職員の情報交換・意見交流の機会を増やす。</p> <p>オ 特別支援の生徒の個別支援計画をできるだけ早期に始め、4年間を見通したライフプランが作成できるようにする。</p> <p>福祉制度の活用と関係諸機関との連携を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションスキル向上のためのワーク実施回数 H28：2回 (関西大学臨床心理専門大学院生による) 	<p>ア 特別な配慮を要するすべての生徒の出身中学校に訪問して、情報共有を行った。(◎)</p> <p>学校案内パンフレットを7月に、学校ホームページを11月にリニューアルし、本校のSSW活動の広報に努めた。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業率 84.8% (○) H29：3年次生 3名/5名 4年次生 25名/28名 中退率 (○) H29：8名/103名 (3月) 全校生徒の出席率 (◎) H29：月平均 71.7～79.6% <p>イ 学校教育自己診断 (△)</p> <p>「担任の先生以外にも保健室や相談室等で気軽に相談できる」 (H29:75.0%)</p> <p>「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」 (H29:76.7%)</p> <p>「学校に行くのが楽しい」 (H29:86.9%)</p> <p>今まで以上に生徒一人一人に寄り添った丁寧な個別支援体制を構築し、生徒が気軽に相談しやすい雰囲気づくりに努めなければならない。</p> <p>ウ SSW同席によるケース会議(校内支援委員会)は年間10回開催した。(◎)</p> <p>取り上げた生徒数 H29：89件</p> <p>エ 生徒相談件数 H29 (3月) (○)</p> <p>保健室 述べ579名 関大院生 述べ511名 教員アンケート (関大院生) H29:82.3% (◎)</p> <p>7月、9月に院生とのミーティングを行い、コミュニケーションを密にした。</p> <p>オ 個別支援の具体化 (○)</p> <p>関係諸機関との連携 11件 コミュニケーションスキル向上のためのワーク実施回数 H29：1回 (配当予算減による派遣回数不足のため、2月に予定していたワークが実施できなかった)</p>
--	--	--	---	--

府立大手前高等学校 定時制の課程

<p style="text-align: center;">3 キャリア教育と人権教育の 充実</p>	<p>(1) 入学から卒業までの期間を見通した、キャリア教育・人権教育の計画の策定</p> <p>ア 計画の企画立案の核となる組織づくりの推進</p>	<p>ア ハローワークや若者サポートステーション、障がい者就業・生活支援センター等と連携した就労指導のスキルを向上させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 就職希望者の内定率を高めるための勉強会や就職試験対策に関する取組みを充実させる。 <p>イ 支援教育サポート校からの支援を受けて、障がいのある生徒の就労について、校内支援スキルを向上させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校適応度を数値化し分析する「アセス」プログラムの導入の是非について検討を進める。 <p>ウ 進路 HR の年間計画を各学年ごとに作成し、計画的に運用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ライフプランの作成等に関して、外部機関による出前授業の活用を検討する。 <p>エ 企業・保護者との連携、情報共有を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 中小企業家同友会との連携による職場体験、インターシップを推進する。 中小企業家同友会と教職員による情報交換会を実施する。 「保護者とともに進路を考える会」を実施し、生徒、保護者、担任の3者面談を行う。 障がい者施設や障がい者雇用事業所との連携・情報交換を実施する。 <p>オ 人権教育推進委員会の企画による生徒向けの人権講習会を実施する。</p>	<p>ア 学校斡旋就職希望者の内定率 100%にする。 (H28: 6/6 100% 3月末)</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部機関との連携を図り、進路未定者数の減少に努める。 (進路未決定率 H28: 22.7% 3月末) キャリア・カウンセラー (CC) の活用 ハローワーク、若者サポートステーションとの連携を継続・発展させる。 就労意識の向上を目的にアルバイト経験を勧め、職業体験の積極的な活用を推進する。 (H28: アルバイト・職業体験推進 17件) 保護者も含めた進路意識向上のため、「保護者とともに進路を考える会」を開催する。 <p>イ 障がいのある生徒の進路指導の確立 職業適性検査から職業体験、そして就労へ結びつける指導を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒のコミュニケーションスキルを向上させるためのワークショップ (WS) やキャリア教育関係の講話を実施する。 (H28: ワorkshopを2回、キャリア講話を各学年1回実施) 支援委員会等において、「アセス」プログラムの研究を進め、導入の是非を検討する。 <p>ウ 各学年の進路 HR を年間3回以上実施する。</p> <p>エ 積極的に呼び掛け、「保護者とともに進路を考える会」出席者数の増加をめざす。 H27: 13名 H28: 24名</p> <p>オ 生徒向け人権講習会の実施回数を年間2回実施する。 H28: 2回</p>	<p>ア 学校斡旋就職希望者内定率 (○) 8名/8名 (3月)</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路未決定率 (○) 14.3% CCの活用 (◎) 年間100時間 生徒の就労支援のみにとどまらず、生徒の家族の支援や、行政・福祉機関との連携等において、キャリアコンサルタントの方には多面的に大変お世話になった。 アルバイト・職業体験推進 (△) H29: 13件 「保護者とともに進路を考える会」出席者 8名 (△) 参加者数増加のための工夫が必要。 <p>イ 職業適性検査から職業体験、就労へ結びつける指導の推進 (○)</p> <p>1年生: 4月に適正職適診断 2年生: 6月にレディネステスト 3年生: 1月に一般職業適性検査 (GATB) 4年生 (3年生卒業予定生含む) : 6月に一般職業適性検査 (GATB)</p> <ul style="list-style-type: none"> 関西大学臨床心理専門職大学院生によるコミュニケーションワークを1回実施。 (配当予算減による派遣回数不足のため、2月に予定していたワークが実施できなかった) 本校同窓生による進路講話を実施した。 CCによるキャリア講話を各学年で1回以上実施した。(○) アセスプログラムについて支援委員会で検討した結果、SSW や SC との緊密な連携による生徒の状況把握が十分に進んでいる現状において、実施の必要なしと判断した。 <p>ウ 学年別進路 HR の回数 (◎)</p> <p>1年 6回 2年 4回 3年 3回 4年 20回</p> <p>エ 「保護者とともに進路を考える会」出席者数 (△) H29: 8名 出席者を増やすための方策を検討する。</p> <p>オ 生徒向け人権講習会実施回数 (△) H29: 0回 人権教育推進委員会を活性化させ、系統立てた人権 HR が実施できるように準備を進める。</p>

府立大手前高等学校 定時制の課程

<p>4 学校力の向上</p>	<p>(1) 組織力を高める教職員相互のスキルアップと外部機関との連携促進</p> <p>ア 教職員研修の充実</p> <p>イ 教職員相互による研修を積極的に推進し、教職員同士で学びあうシステムの構築</p> <p>ウ 専門的な知識・技術を有する外部機関との連携強化</p> <p>エ 教職員が一丸となって教育活動に関わる学校組織の構築</p> <p>(2) いきいきとした学校生活を送るための環境整備</p> <p>オ 部活動の活性化</p> <p>カ 保護者との連携強化</p> <p>キ 企画調整委員会の活性化</p> <p>ク 広報活動の活性化</p> <p>ケ 各種指導内容の充実と指導時間の確保</p>	<p>ア 教職員研修の系統立てた実施計画を策定する。</p> <p>イ 研究授業週間の一層の充実を図る。 ・教科の枠を超えた他教科との「コラボ授業」などの新しい試みを模索・実践する。</p> <p>ウ 関西大学大学院等外部機関との連携を強化し、生徒の適性に沿った指導体制を強化する。また、他校の先進事例等の研究を推進する。</p> <p>エ 静かな教育環境の維持及び携帯電話や学校生活のマナーについての意識高揚を図るため、組織的な指導体制を構築する。</p> <p>オ 部活動の活性化により、生徒自らが学校生活に潤いを持てる環境を整備する。</p> <p>カ 保護者会と教員の懇談会を実施する。</p> <p>キ 企画調整委員会で 従来の指導の在り方や行事への取組み方を見直し、生徒のニーズと現状に合った内容を検討する。また、志願者数減少の分析と教員数の減少に伴う校内組織の再構築の検討を行い、学校力の向上を図る。</p> <p>ク 本校のSSW活動の取り組みやICTを効果的に活用した授業実践、落ち着いた学習環境の実現等について、積極的に外部にアピールし、志願者の増加につなげる。</p> <p>ケ 始業時間を10分間繰上げることによって、放課後に指導時間を確保し、クラブ指導、進路指導、個別指導等を余裕を持って行えるようにする。</p>	<p>ア メンタルケア、ICTを活用した先進的な授業実践、新学習指導要領等の研修を実施する。 (H28 研修回数6回) 人権関係 ICT 機器使用方法 SNS 関係 観点別評価の実践例 SW について SC より (軽度知的障がいについて)</p> <p>イ 興味ある授業づくりを推進するため研究授業・研修会を年間2回実施する。</p> <p>評価の在り方や学習形態、プレゼンテーションソフトの活用等について、組織的な研究授業を行う。</p> <p>ウ 関西大学院生による生徒のメンタルサポート事業アンケート(教員向け)を実施し肯定率を少しでも向上させることを目標とする。(H28:45%)</p> <p>エ 生徒指導件数をめやすに学校マナーの徹底を図る。 (H28 懲戒件数 0件)</p> <p>オ 部活動の奨励 (H28 入部率:57.7%)</p> <p>カ 保護者とともに進路を考える会・教員との懇談会の実施</p> <p>キ 指導の在り方、行事への取組み方、各種委員会の統廃合について企画調整委員会で継続・検討する。</p> <p>ク 学校案内パンフレット及び学校ホームページの刷新(平成29年5月中を目途に実施) ・志願者数の増加 H28:17名(1次・2次) H29:18名(1次・2次)</p> <p>ケ 学校斡旋就職希望者の内定率向上 (H28:6/6 100%) ・進路未定者数の減少 (進路未決定率 H28:22.7%) ・部活動入部率向上 (H28 入部率:57.7%)</p>	<p>ア パッケージ研修支援Ⅱにかかわる全体研修(2回)、人権関係(全日制と共催)、校内支援委員会関連(SSWとSC同席1回、SC同席1回)、生徒指導の方向性に関する研修、AEDに関する研修を行った。(◎) (H29 研修回数7回)</p> <p>イ パッケージ研修支援Ⅱにかかわる全体研修2回(うち1回は観点別評価の在り方について)、研究授業及び研究協議を2回実施した。(○)</p> <p>ウ 教員の外部人材の肯定率 H29 (○) SSW:88.2% CC:94.1% 関大院生:82.3% ※今年度、アンケートの選択肢を見直したことが結果に影響を与えている。(3択→5択)</p> <p>エ 生徒指導件数(◎) H29:3月末の懲戒件数0件</p> <p>オ 部活動加入率(◎)(3月) 65.6% (運動部31人 文化部32人) 全国大会出場 陸上部1名 科学部が日本物理学会 Jr セッション等で優秀賞を受</p> <p>カ 保護者進路説明会を5月25日に実施。就労支援事業所も参加。(○)</p> <p>キ 教職員減少に対応した改組について、今後も検討を継続する。(○)</p> <p>ク パンフレット刷新:7月 学校ホームページ刷新:11月(○) H30 志願者数 20名 (1次・2次)</p> <p>ケ 学校斡旋就職希望者内定率 H29:8名/8名 100%(3月) 進路未決定率 H29:14.3%(3月) 部活動入部率 H29:65.6%(3月)</p>
<p>5 ICTを活用した校務の効率化</p>	<p>(1)校務の効率化による教員の生徒と向き合う時間の確保</p> <p>ア 生徒情報の共有化を正確かつ容易にするためのシステムづくりの推進</p> <p>イ ICT機器を使った授業についての研究・教材開発</p>	<p>ア ICT委員会の機能強化と情報セキュリティーの整備充実を図るとともに、円滑な新校務処理システムへの移行を図る。</p> <p>イ タブレット型PC、書画カメラ等のICT機器の活用による教材を開発する。</p>	<p>ア 校務処理システムが正常に稼働しているか点検を行う。</p> <p>イ ICT委員会においてICT機器の研修会を実施する。また、ICT機器を使った公開授業を今年度中に1回実施する。 ・他校の先進的な公開授業等を見学し、定時制にあった教材を作成する。 (タブレット型PC、プレゼンテーションソフトの活用) (H28:他校の先進的事例見学1回)</p>	<p>ア 転編入生徒に対応した校務処理は手計算せざるをえないが、それ以外は順調に稼働している。(○)</p> <p>イ 昨年度に新プロジェクタ導入に関連して研修会を実施したので、今年度は実施しなかった。ICT機器を使った公開授業は、パッケージ研修支援Ⅱの中で行った。(○) ・他校の先進事例見学は、今年度実施できなかった。(△) ICT教材作成は、個々の教員によって進めている。(○)</p>